採用施設一覧（◎は基幹施設、○は連携施設）

◎豊島病院
◎荏原病院
◎墨東病院

○広尾病院

◎多摩総合医療センター
◎小児総合医療センター
◎松沢病院

○駒込病院

研修プログラムの特徴

● 豊島病院（基幹施設）
東京都立豊島病院精神科専門研修プログラム

プログラム責任者：精神科　奥村　正紀　　プログラム研修期間：3 年

原則、2 年間は基幹施設の当院、1 年間は連携施設をローテイトします。当院では、急性期精神疾患を中心に、統合失調症、気分障害、器質性精神疾患等の主要な精神疾患を経験し、指導医による指導の下、精神科的面接法、診断と治療計画、精神療法、薬物療法の基本を習得します。さらに、東京都夜間休日精神科救急での緊急措置診察、精神科身体合併症、コンサルテーション・リエゾン、ECT 等の身体療法、クロザピン導入など、精神科臨床の基礎と多職種によるチーム医療を経験します。テーマ別のクルズスや抄読会などを開催し、研究・学会発表等の指導も受けることができます。連携施設はそれぞれ特色があり、認知症を中心とする器質性精神疾患 (健康長寿医療センター、陽和)、発達障害・摂食障害等を中心とする児童・思春期精神疾患 (小児総合医療センター・国立健康危機管理研究機構国立国府台医療センター)、医療観察法病棟での司法精神医療 (松沢、国立精神・神経医療研究センター)、リエゾン・コンサルテーション及び精神腫瘍学 (がん研有明)、アルコール依存症を中心とする物質使用障害 (松沢、成増厚生)、慢性期精神疾患・地域精神医療・デイケア・アウトリーチ活動 (東京足立、恩田第二、小山富士見台、平川、大宮厚生、青梅成木台・多摩中央病院)、精神保健行政 (精神保健福祉センター)、大学病院 (東京科学大学・日本医科大学附属病院) の中から、関心と希望に基づいた外部研修を行い、幅広い領域の臨床経験を積み、精神保健指定医、精神科専門医の資格取得に必要な症例を学ぶことができます。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	豊島病院											
	基幹施設での急性期を中心とする地域精神医療、精神科救急、精神科身体合併症、リエゾンなどの研修を行う。											
2 年次	小児総合医療センター				恩田第二病院				大宮厚生病院			
	選択した連携施設での研修により、児童思春期、認知症を中心とする器質性精神障害、司法精神医療、精神腫瘍学などの専門領域での研修を行う（例）。											
3 年次	豊島病院											
	基幹施設での研修を再開し、精神保健指定医・精神科専門医等の資格取得準備や学会等での研究発表に積極的に取り組む。											

● 荏原病院（基幹施設）
東京都立病院機構東京都立荏原病院施設群精神科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：精神科　成島　健二　　プログラム研修期間：3 年

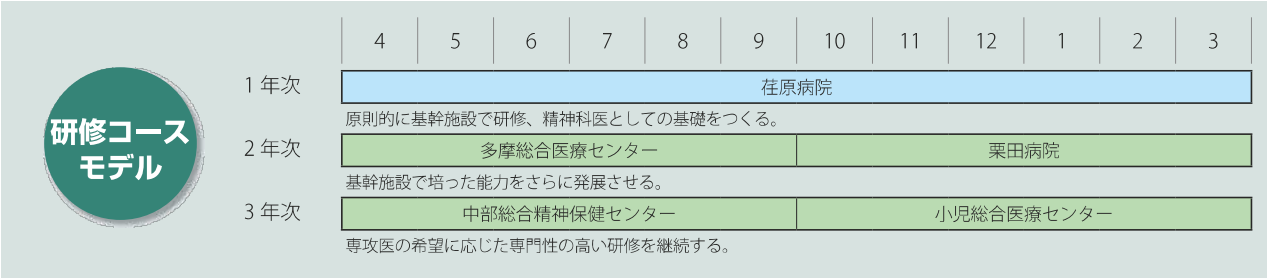
本プログラムは研修基幹施設を含む 10 施設群からなります。基幹施設の東京都立荏原病院は、総合病院の中に有床精神科を持ち、デイケアも併設されています。開放病棟であるにも関わらず重症例や身体合併症を得意とすることが特色です。専攻医は総合病院の豊富な医療資源を生かして最善の治療を行うプロセスを体験することができます。診療は、多職種とのチーム医療を基本とします。以下に連携施設の概略を紹介します。

東京都立小児総合医療センターでは、児童・思春期の精神医療を恵まれた環境で研修することができます。東京都立多摩総合医療センターでは、精神科 3 次救急や、重篤な身体合併症医療の研修が可能となっています。正慶会栗田

精神科

病院では、私立単科精神病院での特色ある研修や、精神科リハビリテーションを経験できます。また、東京都立中部総合精神保健福祉センターでは、デイケアやアウトリーチなど、地域と深く結びついた幅広い形の精神科医療を研修できます。横浜市立みなと赤十字病院では東京都とは異なるシステムの精神科３次救急や身体合併症の研修が、東京科学大学や自治医科大学では大学病院ならではの高度に専門化された精神科医療を、柏水会初石病院や翠会成増厚生病院では地域に寄り沿ったその地域ならではの医療が研修できます。

本プログラムでは、基幹施設での研修のみでも十分な精神医学的知識や実践的な治療技法を身につけることができますが、連携施設で研修を継続することによって、高レベルでユニークな精神科医となることが可能となっています。



● 墨東病院（基幹施設）
都立墨東病院精神科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：精神科　佐々木　健至　　プログラム研修期間：３年

本研修プログラムは、基幹病院の墨東病院神経科での業務を中心とし上記の連携施設での研修を組み合わせることにより、広範で多彩な精神科臨床を経験できます。墨東病院での主な業務は以下の４つです。

⑴　急性期を中心とした一般的な精神医療：当科外来や近隣医療機関に通院中の患者、及び東京都・区東部の保健・福祉機関から紹介された患者に対して入院及び外来治療を行います。閉鎖病棟である特質上、興奮や希死念慮の強い重症および難治性の精神疾患にも対応しています。専攻医は指導医とペアで患者を受け持ち、bio-psycho-social に患者を捉える経験を積みます。

⑵　東京都「夜間休日精神科救急事業」による緊急措置入院患者の診療：東京都が実施する「精神科夜間休日診療事業」として、いわゆる精神科３次救急（緊急措置診察および入院）を行っています。当科は第１ブロック（千代田、中央、港、文京、台東、墨田、江東、江戸川）を担当しています。

⑶　精神科リエゾン医療：救命救急センター、周産期医療センターを含む診療各科の依頼に応じ、入院患者の精神科的な問題に対して指導医とペアで対応します。多職種から構成される精神科リエゾンチームと協同してフォローアップします。

⑷　精神科身体合併症医療：院内身体科の治療中に生じた器質性精神疾患を、身体科と共同で患者の心身両面の治療を行います。また東京都の精神科身体合併症救急医療システムに則って、地域の精神科病院からの身体治療の依頼に対して転入院で対応します。2020 ～ 22 年度、COVID-19 パンデミック下においても、当科はこれらの業務を途切れることなく維持しました。

墨東病院における上記の業務に加えて、東京都外の連携病院での８ヶ月の研修及び都内の連携施設での研修を行うことで、精神科専門医及び精神保健指定医の取得に必要なすべての症例及び場面を経験することが可能であり、また、総合病院精神、児童精神、認知症関連、てんかん、司法精神等、精神科関連のサブスペシャルティ資格取得に向けた準備を行うことができます。

● 多摩総合医療センター（基幹施設）
東京都立多摩総合医療センター施設群精神科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：精神神経科　岩田　健　　プログラム研修期間：3 年

基幹病院である多摩総合医療センターは多摩地区の基幹的な救命救急センターと総合周産期医療センターを擁しており、精神科救急の基幹病院及び精神科身体合併症事業においても重要な役割を果しています。従って本プログラムは精神科救急を学ぶこと、合併症医療、リエゾン医療に携わることが研修の中心になります。その上で ECT、緩和医療、周産期精神医学を研修できます。連携施設も豊富で希望に応じて児童・思春期や高齢者、リハビリ、依存症をそれぞれ専門的に治療を行っている施設もあり研修を受けられるように配慮されています。女性の専攻医（令和 7 年度の当プログラムに入った専攻医 3 人中 1 人が女性）も在籍しており性差なく研修できるプログラムです。 1 年目は基幹施設の多摩総合医療センター精神科で上級医と一緒に統合失調症、気分障害、器質性障害、神経症性障害、アルコール・薬物依存性障害の急性期の患者等を受け持ちまた緊急措置診察に同席し基本的な診療技量を身に付けられるようになっています。リエゾン、外来診察も最初は上級医師の診察を見学し徐々に相談しながら自ら行うようにしています。 2 年目は医師少数区域・他県の連携施設で研修を受け経験する疾患、状態を広げるとともに、技量を深化させられるようになっています。 3 年目はそれぞれのプログラムの終了後の進路や専攻医の志向にあわせて、多摩総合医療センターを含む都立病院等での研修を受けられます。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	多摩総合医療センター											
	急性期医療を中心に、精神科救急、リエゾン（含む　産科、緩和）、合併症医療を経験する　（指定医症例：措置症例、統合失調症、感情障害）											
2 年次	茨城県立こころの医療センター等の他県 / 医師少数区域に在る施設で研修											
	他県の施設で地域に密着した精神医療の展開を学ぶ　（措置症例：思春期症例、アルコール依存）											
3 年次	都立小児総合医療センター等の都立病院						多摩総合医療センター					
	原則都立病院から、最大 2 か所まで選択して、研修する　（措置症例：思春期症例、アルコール依存、器質性精神障害）											

● 小児総合医療センター（基幹施設）
都立小児総合医療センター施設群精神科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：児童・思春期精神科　長沢　崇　　プログラム研修期間：3 年

本施設群は 6 つの施設から構成されます。1 年目は研修基幹施設で、2、3 年目は研修基幹施設および研修連携施設をローテイトして研修します。研修基幹施設は東京都府中市にある小児総合医療センターで、主要な精神疾患の患者を受け持ち、面接法、診断と治療計画、精神療法、薬物療法の基本を学びます。更に、身体合併症、リエゾン・コンサルテーション、難治性精神疾患に対する生物学的治療、心理社会的療法など、臨床を幅広く経験します。また、研究・学会発表についても指導を受けることが出来ます。さらに松沢病院、多摩総合医療センター、多摩あおば病院、駒木野病院、鶴が丘ガーデンホスピタルと連携していて、精神科救急医療、急性期医療、身体合併症医療、社会復帰・リハビリテーション医療、認知症医療、アルコール・薬物医療の他、デイケア、家族支援、地域支援など地域と密着した医療が経験できます。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	基幹施設研修											
2 年次	連携施設研修　6 か月						基幹施設研修					
3 年次	基幹施設研修											

精神科

松沢病院（基幹施設）
東京都立松沢病院精神科専門研修プログラム

プログラム責任者：精神科　正木　秀和　　プログラム研修期間：3 年

東京都立松沢病院（以下当院）が基幹施設である本プログラムは、東京医師アカデミーのシステムにより、都立病院、大学病院、地域精神医療の基幹病院等と連携し、総合的に精神科医療を研修するプログラムです。当院は東京都の行政精神科医療等で中核的な役割を担っている精神科病院です。808 床の精神科病床を有し精神科医が約 40 名在籍しています。精神科救急医療、急性期医療、身体合併症医療、社会復帰・リハビリテーション医療、思春期・青年期医療、認知症医療、アルコール・薬物医療、医療観察法病棟の他、デイケア、作業療法等を行っています。専攻医は精神科領域のほとんどの疾患を経験し、措置入院や医療観察法入院を含め、すべての入院形態の症例を経験し研修することができます。精神医学の基本的な知識・技術を習得し、精神科専門医の資格を取得するのと同時に、精神保健指定医資格取得、学会発表や論文作成の技術を獲得することを目標とします。専攻医の希望を考慮しながら、救急病棟、急性期病棟、リカバリー病棟、思春期・青年期病棟、認知症病棟、アルコール・薬物病棟、身体合併症病棟等を約 6 か月ずつ研修します。3 年間の研修期間のうち、2 年間を当院、1 年間を連携施設で研修します。連携施設研修は、北海道大学、函館渡辺病院、あさかホスピタル、自治医科大学、栃木県立岡本台病院、埼玉医科大学、埼玉医科大学総合医療センター、埼玉県立精神医療センター、大宮厚生病院、千葉県総合救急災害医療センター、聖マリアンナ医科大学、神奈川県立精神医療センター、済生会横浜市東部病院、大阪精神医療センター、山口県立こころの医療センター、こころの医療センター五色台、TAOKA こころの医療センター、旭川医科大学病院など医師充足率の低い地域で 1 年間行うことを予定しています。